

エコアクション21

環境経営レポート

71期（2023年度）

（対象期間：2022年10月～2023年9月）



富士レジン工業株式会社

発行日：2024年2月22日



エコアクション21[®]
認証番号 0005939

< 環境経営方針 >

当社は、「合成樹脂ライニングの施工」や「強化プラスチック（FRP）製機器の設計、製作」などを主とする事業経営において、国際的な持続可能な開発目標（SDGs）の一つである環境保全経営を重要課題として位置づけ、環境経営に取り組む。

1. 下記の目標を揚げ、継続的改善を行う。

- ① 人と地球にやさしい材料の設計・研究開発を新しい観点から見直し
環境・安全・品質を考慮した製品づくりにより顧客の信頼を得る。
- ② 省エネルギー製品を使用し、二酸化炭素排出量を削減する。
- ③ 廃棄物、水および揮発性有機化合物（VOC）の使用量を削減する。
- ④ クリーンな原材料を調達し、生産方法の多様化を計り、市場を開拓する。

2. 環境に関連する法規制、基準及びその他の要求事項を遵守し環境汚染防止に努める。

3. 環境経営レポートを作成し、情報を共有する。従業員の意志向上と顧客との環境コミュニケーション経営を推進する。

2008年5月21日制定

2019年9月21日改訂

富士レジン工業株式会社
代表取締役 松本一郎

< 事業概要 >

事業者名：富士レジン工業株式会社

代表者：代表取締役 松本 一郎

所在地：〒661-0976 兵庫県尼崎市潮江3丁目1番17号

資本金：3億円

創業：昭和26年11月1日

創立：昭和28年4月20日

事業内容：① 合成樹脂ライニングの施工

② 強化プラスチック（FRP）製機器の設計、製作および販売

③ 合成樹脂ライニング材料の設計、製造および販売

事業規模：2023年度（2022年10月1日～2023年9月末日）

売上高：33億7719万円

生産高：36億1364万円

	従業員数（人）	延べ床面積（㎡）
本社・工場	46	3,493（敷地）
富士工場	13	1,719（敷地）
東京支店	11	152
名古屋営業所	6	168
福岡営業所	7	100
合計	83	---

2023年8月21日現在

事業所名および所在地：

本社・工場

〒661-0976 尼崎市潮江3丁目1番17号
TEL.(06)6499-0301 FAX.(06)6497-0821
Web site : <http://www.fujiresin.co.jp>

東京支店

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町1番8号
(日本橋大伝馬町プラザビル4階)
TEL.(03)3663-4300~3 FAX.(03)3663-4304

富士工場

〒419-0202 富士市久沢字楠164-4
TEL.(0545)71-4143 FAX.(0545)71-0558

名古屋営業所

〒465-0013 名古屋市名東区社口1丁目913番地
TEL.(052)771-3866 FAX.(052)776-7056

福岡営業所

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1丁目1番10号
(天神シルバービル)
TEL.(092)781-6858 FAX.(092)781-7871

< 環境対応体制 >

品質保証委員会が環境計画の策定および環境経営進捗状況の把握、評価など環境経営を行っている。

環境管理責任者：取締役 大阪工場長 和田哲也
 E A 2 1 事務局：大阪工場長付き 隠岐 拓
 連絡先：電 話 06-6499-0303
 F A X 06-6498-4032

< 認証・登録範囲 >

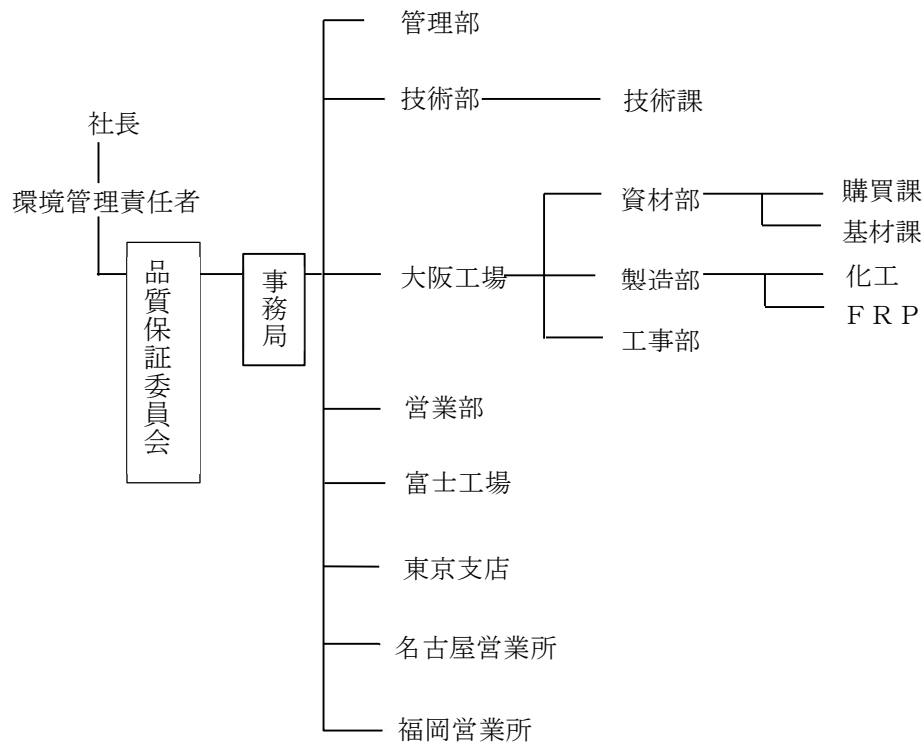


図. 環境経営体制および認証・登録範囲

(注：認証・登録範囲の事業活動は、P2の事業内容を参照)

表 役割・責任および権限一覧表

職位	役割・責任	権限
社長	<ul style="list-style-type: none"> ① E A 2 1 の最高責任者 ② 環境経営方針の制定、見直し ③ E A 2 1 システムの承認 ④ E A 2 1 の経営資源の確保 ⑤ 環境管理責任者の任命 ⑥ E A 2 1 全体の評価と見直し 	E A 2 1 の確立・実行・維持・改善に関する全権限
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ① 経営者の代行 ② E A 2 1 システムの確立・実施・維持・改善 	E A 2 1 の確立・実行・維持・改善に関して指示する権限
品質保証委員会 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ① 関連法規の把握および届出 ② E A 2 1 マニュアルの見直し・改定 ③ 環境経営レポートの作成・維持 ④ 環境経営計画の実績把握 ⑤ 環境関連の教育・訓練の発案、実施 ⑥ その他環境管理責任者の支援 	環境管理責任者の指示により、左記に関する事項の全部署に展開する権限
部門・部署長	部署の E A 2 1 に関する業務を確立・実行・維持	左記の事項に関し部署内従業員に対し指示する権限
従業員	手順・ルールを遵守する責任	———
共通	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境改善の提案 ② 当該環境改善の実施 	———

< 中期（3年間）環境経営目標および経営計画 >

70期（2021年10月1日）～72期（2024年9月30日）

1. 69期2021年度を基準年として、下記項目についてそれぞれ対生産高比毎年0.5%、3年で1.5%削減。ただし、電力使用量のみ目標0.2%。

- 1) 二酸化炭素排出量
- 2) 廃棄物総排出量
- 3) 上水使用量
- 4) 洗浄用有機溶剤アセトン使用量

2. 環境汚染の少ない環境配慮製品を5年で1件開発。

	環境目標	基準値 (基準年度：2021)	責任部門 責任者	年度毎目標・達成手段			
				70期 2022年度	71期 2023年度	72期 2024年度	
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	2.110 kWh/万円	全部門 各部門長	基準年度比	99.8%	99.6%	99.4%
		0.896 kg-CO ₂ /万円 二酸化炭素排出係数* 0.432 [kg-CO ₂ /kWh]		目標値	0.894 kg-CO ₂ /万円	0.892 kg-CO ₂ /万円	0.891 kg-CO ₂ /万円
	(*）2021年度の当社：0.318(関西電力)、東京支店および富士工場：0.462(東京電力)、名古屋営業所：0.482(中部電力)、福岡営業所：0.528(九州電力)の加重平均値			達成手段	・空気圧縮機不要時オフ ・乾燥炉ファンの適正化 ・不要照明の消灯	・ウォームビズ・ クールビズの強化	・休憩室工場照明 のLED化
	ガソリンの削減	0.034 L/万円	全部門 各部門長	基準年度比	99.5%	99.0%	98.5%
		2.729 kg-CO ₂ /万円 二酸化炭素排出係数 2.3200 kg-CO ₂ /L 単位 34.6 MJ/L 発熱量		目標値	2.716 t-CO ₂ /万円	2.702 t-CO ₂ /万円	2.688 t-CO ₂ /万円
	都市ガスの削減 (用途：事務所コンロ、湯沸器、ストーブ、風呂および化工乾燥炉)			全部門 各部門長	基準年度比	99.5%	99.0%
0.038 Nm ³ /万円 3.677 t-CO ₂ /万円 二酸化炭素排出係数 2.1600 kg-CO ₂ /m ³ 単位 44.8 kg-CO ₂ /m ³ 発熱量	目標値	3.659 t-CO ₂ /万円	3.640 t-CO ₂ /万円		3.622 t-CO ₂ /万円		
二酸化炭素排出量合計					7.269 t-CO ₂	7.235 t-CO ₂	7.201 t-CO ₂
一般削減廃棄物の削減	一般廃棄物の削減 (燃えるゴミ、紙管、樹脂付着段ボール、粉末紙袋)	0.181 kg/万円	全部門 各部門長	基準年度比	99.5%	99.0%	98.5%
				目標値	0.180 kg/万円	0.179 kg/万円	0.178 kg/万円
				達成手段	裏紙使用の励行	回覧は電子ファイルで行い紙への印刷を減らす	段ボール箱を汚さないように再利用する

産業廃棄物の削減	廃プラスチックの削減	0.778 kg/万円	製造部 製造部長	基準年度比	99.5%	99.0%	98.5%
				目標値	0.774 kg/万円	0.770 kg/万円	0.766 kg/万円
				達成手段	分別の強化	作業工程見直し	ラック-端材の有効利用検討
	廃油の削減	0.0170 kg/万円	製造部門 各製造部門長	基準年度比	99.5%	99.0%	98.5%
				目標値	0.0169 kg/万円	0.0168 kg/万円	0.0167 kg/万円
				達成手段	・溶剤回収装置利用を強化する		
木くず	46.90 g/万円	製造部門 各製造部門長	基準年度比	99.5%	99.0%	98.5%	
			目標値	46.67 g/万円	46.43 g/万円	46.20 g/万円	
			達成手段	・パレットが壊れたらすぐ廃棄するのではなく、できるだけ補修しながら使用する。 ・FRP製造用の木型は出来るだけ再利用できるように設計し、廃棄を減らす。			
環境目標	基準値 (基準年度：2021)	責任部門 責任者	年度毎目標・達成手段				
			2022年度	2023年度	2024年度		
上水削減量	上水道水の削減	0.804 m ³ /百万円	全部門 各部門長	基準年度比	99.5%	99.0%	98.5%
				目標値	0.800 m ³ /百万円	0.796 m ³ /百万円	0.792 m ³ /百万円
				達成手段	・水道配管の漏水点検を定期的に行う		
化学物質使用量の抑制	アセトンの削減	0.0247 kg/万円	製造部門 各製造部門長	基準年度比	99.5%	99.0%	98.5%
				目標値	0.0246 kg/万円	0.0245 kg/万円	0.0243 kg/万円
				達成手段	洗浄方法を見直し、無駄をなくす。溶剤回収装置活用を強化する。		
	スチレンモノマーの削減	2.146 kg/万円	製造部門 各部門長	基準年度比	99.5%	99.0%	98.5%
				目標値	2.135 kg/万円	2.125 kg/万円	2.114 kg/万円
				達成手段	作業内容を見直す		
メタクリル酸	0.776 kg/万円	全部門 各部門長	基準年度比	99.5%	99.0%	98.5%	
			目標値	0.772 kg/万円	0.768 kg/万円	0.764 kg/万円	
			達成手段	作業内容を見直す			
物質削減量	コピー用紙の削減	0.00276 kg/万円	全部門 各部門長	基準年度比	99.5%	99.0%	98.5%
				目標値	0.00275 kg/万円	0.00273 kg/万円	0.00272 kg/万円
				達成手段	・記録類の電子化保管を進める	・会議資料のペーパーレス化を進める	・会議資料のペーパーレス化を進める
製品環境配慮	環境配慮製品の開発	1件 3~5年を目途に取り組む	技術部 技術部長	基準年度比	1件		
				目標値	1件		
				達成手段	P D C Aを回し、かつ出張がちな所属部員同士がお互いサポートしながら確実に進める。		

環/境/交/響/楽

人と暮らしに響き合う、テクノロジーでありたい。

「環境を守る富士レジン」をメイン・テーマに、「排煙脱硫装置の内面ライニング材の製造、施工管理」、「先進のFRP製機器」および「排ガス処理装置の開発」など環境保護を目的とする事業を行ってまいりました。

これらの分野で培った豊富な技術と経験をもとに、さらに「人と地球にやさしい材料」をテーマとし、コンクリート構造物の「安全被覆」を新しい観点から見直しました。

独創から協奏へ……私たちはこの地球環境を守り、人と暮らしに安全と安心を提供し、そしてお客様と共に響き合う、そんな企業を目指しております。



< 7 1 期 2023 年度（2022 年 10 月～2023 年 9 月） 目標達成手段 >

	目標達成手段
二酸化炭素排出量削減	・空調の適温化（冷房 28 度程度、暖房 20 度程度）を徹底する
	・ロッカー室や倉庫、使用頻度が低いトイレ等の照明は、普段は消灯し、使用時のみ点灯する
	・夏季における軽装（クールビズ）、冬季における重ね着等服装の工夫（ウォームビズ）をして、冷暖房の使用を抑える
	・コンプレッサは使用時のみ起動させる。エア漏れの定期的に点検する。
	・乾燥炉ファン容量の適正化を計る。
	・負荷の変動が予想される動力機器において、回転数制御が可能なインバーターを採用する
	・LED照明の導入
	・エコドライブなど運転方法の配慮（急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止など）の励行
	・燃費記録を義務付けエコ運転のモチベーションアップに努める。
	・タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正值（メーカー指定の空気圧）を保つように努める
	・オイル汚れを定期的に確認する
	・社有車のリースアップ時のハイブリッド車（低燃費車）への転換を進める。
	・都市ガス使用の乾燥炉には自動温度記録計を設置し、温度管理を徹底する。
・ばい煙などの監視および測定やばい煙処理設備の点検を定期的に行うなど、適正に管理する	
一般廃棄物の削減	・帳票の見直し、紙から電子化への変換を推進する。
	・廃棄物の最終処分先を定期的に、直接、確認する

産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> 品質管理を徹底し、不具合による製品廃棄処分削減などに努める。
	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物管理票（マニフェスト）をもとに廃棄物の適正な処理を行う
	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物は分別を強化し、最終処分先を定期的に、直接、確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> 廃液の回収・再利用のための設備を設置し、活用するなど廃棄物削減に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> 一斗缶など金属類は、廃棄物ではなく専門業者に出し、有価化に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> 木材（パレット、木型など）や段ボール箱は再利用またはリサイクル業者にまわす
	<ul style="list-style-type: none"> 作業工程を見直し、廃棄物の削減に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> ライナー端材とプリプレグ硬化物の削減と有効利用を検討する。
上水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 節水コマを設置する
	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い時、洗い物においては、日常的に節水を励行する
	<ul style="list-style-type: none"> 水道配管からの漏水を定期的に点検する
化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質排出移動量届出制度（PRTR 制度）にもとづく取組を行う
	<ul style="list-style-type: none"> 有害性の化学物質の表示を徹底する
	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質の安全性に関する情報伝達のため、SDS により管理する
	<ul style="list-style-type: none"> ハスチン樹脂による製品開発を進める。
	<ul style="list-style-type: none"> 機械、工具の洗浄方法を見直し、無駄をなくす。溶剤回収装置活用を強化する。

資源使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議用資料や事務書類の簡素化に取り組む
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社内 LAN、データベース等の利用による記録や文書の電子化に取り組む
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打合せや会議の資料等については、ホワイトボードやプロジェクターの利用により、ペーパーレス化に取り組む
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印刷物を作成する場合は、その部数が必要最小限の量となるように考慮し、残部が出ないように配慮する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両面、集約等の機能を活用した印刷及びコピーを徹底する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用済み用紙、ポスター、カレンダー等の裏紙が活用できる紙は可能な限り利用する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ コピー機は、枚数や拡大・縮小の誤り等のミスコピーを防止するため、使用前に設定を確認するとともに、次に使用する人に配慮し、使用後は必ず設定をリセットする
	<ul style="list-style-type: none"> ・ シュレッダーの使用を機密文書等に限り、シュレッダー処理紙のリサイクルに努める
環境配慮資材購入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 節水型の家電製品、水洗トイレなどを積極的に購入する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温室効果ガス排出係数の低い小売電気事業者から電力を購入する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社用車について、ハイブリッド車や低燃費車、低排出ガス認定車、電気自動車、天然ガス自動車などの低公害車への切替えに取り組む
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再生材料から作られた製品を優先的に購入、使用する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間伐材、未利用資源等を利用した製品を積極的に購入、使用する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ コピー用紙、コンピューター用紙、伝票、事務用箋、印刷物、パンフレット、トイレットペーパー、名刺等の紙について、再生紙または未利用繊維への転換を図る
環境配慮製品の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品の長寿命化を指向する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原材料の見直しを行う
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境汚染の極めて少ない（水性やノンスリ樹脂など）製品開発に積極的に取り組む。

＜ 環境経営計画の取組結果とその評価および次年度の取組み内容＞
71期 2023年度（2022年10月～2023年9月）

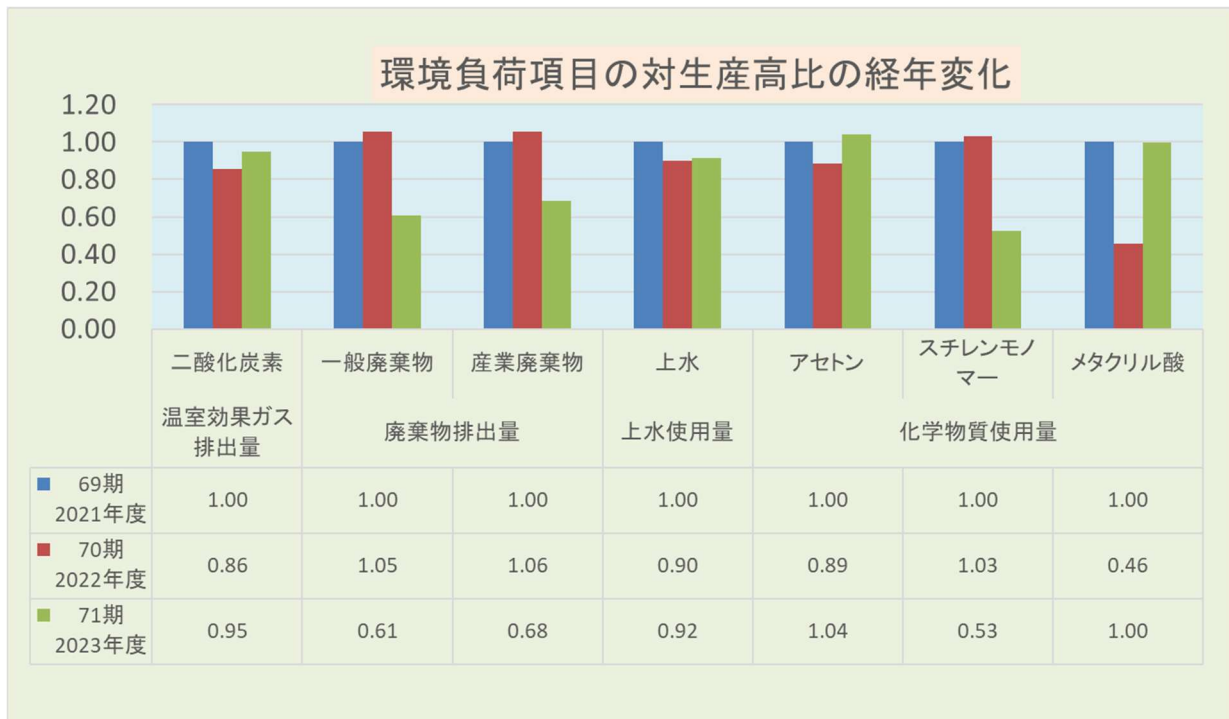
達成率：100%以上：○、99.9～97.0%：△、96.9%以下：×					
		実績・取組結果		達成率	評価および次年度の取組内容
二酸化炭素排出量削減	電力使用量の削減				○ 節電意識は定着したと考えられる。 更なる節電意識の向上を目指す。
	2021	基準値	0.896	kg-CO ₂ /万円	
	2023	年度目標	0.892	99.6%	
		実績	0.547	163.1%	
	ガソリン使用量の削減				× 出張工事の増加によると考えられる。 エコ運意識の強化に努める。
	2021	基準値	0.022	kg-CO ₂ /万円	
	2023	年度目標	0.021	99.0%	
		実績	0.186	11.5%	
	都市ガス使用量の削減				× 加熱炉を使用する商品を多く受注したためと考えられる。
	2021	基準値	0.0844	kg-CO ₂ /万円	
2023	年度目標	0.0835	99.0%		
	実績	0.120	69.9%		
	エネルギー排出量合計	目標値	1.126	kg-CO ₂ /万円	○ 電気使用量削減に努める
		実績	0.910	123.8%	
排出一般廃棄物削減	一般廃棄物（一般ごみ）の削減				○ 前期に燃えるごみの分別方法が変更になり、紙の廃棄物が減ったことによる。
	2021	基準値	0.181	kg/万円	
	2023	年度目標	0.179	99.0%	
	実績	0.078	230.3%		
産業廃棄物排出量削減	廃プラスチックの削減				○ 今期は不具合による返却された製品の廃棄処分が減ったことによる。来期もクレームゼロを目指す。
	2018	基準値	0.778	kg/万円	
	2021	年度目標	0.770	99.0%	
		実績	0.406	189.8%	
	廃油の削減				○ 再生溶剤活用が定着して来たことによると考えられる。再生溶剤利用促進を強化する。
	2021	基準値	0.0166	kg/万円	
	2023	年度目標	0.01643	99.0%	
		実績	0.0149	109.9%	
	木くずの削減				○ ライナー返却に伴う木箱処分がなかったためと考えられる。クレームゼロを目指す。
2021	基準値	0.0469	kg/万円		
2023	年度目標	0.0464	99.0%		
	実績	0.0095	490.6%		

	実績・取組結果			達成率	評価および次年度の取組内容		
量削減 上水使用	水道水の削減				○	節水意識が向上し、また従業員の風呂利用が減少したためと考えられる。	
	2021	基準値	0.804	m3/百万円			
	2023	年度目標	0.796	99.0%			
		実績	0.643	123.8%			
化学物質使用量抑制	スチレンモノマーの削減				○	フレークライニング工事受注量が減ったためと考えられる。ノンスチレン製品への置き換えを強化する。	
	2021	基準値	2.146	kg/万円			
	2023	年度目標	2.124	99.0%			
			実績	1.13	188.1%		
	アセトンの削減				○	出張工事の減少による工具洗浄用アセトン使用量が減少したためと考えられる。再生溶剤の使用を強化する。	
	2021	基準値	0.0247	kg/万円			
	2023	年度目標	0.0245	99.0%			
			実績	0.0222	110.1%		
	メタクリル酸の削減				○	弊社主力製品であったビニルエステル樹脂製品による工事受注が減少したためと考えられる。	
2021	基準値	0.776	kg/万円				
2023	年度目標	0.768	99.0%				
		実績	0.344	223.4%			
物質使用量削減	コピー紙(白上質紙)の削減				○	デジタル化への移行が進んだためと考えられる。引き続き取り組んでいく。	
	2021	基準値	0.00276	kg/万円			
	2023	年度目標	0.00273	99.0%			
		実績	0.00242	112.8%			
製品開発 環境配慮	環境配慮製品の開発				×	樹脂メーカー新樹脂開発の働きかけを一層強化する。	
	2021	基準値	1	件/5年			
	2023	年度目標 (進捗度)	60	%			
		実績	55	91.7%			

< 環境への負荷の経年変化 >

		69期 2021年度	70期 2022年度	71期 2023年度
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	1.00	0.86	0.95
廃棄物排出量	一般廃棄物	1.00	1.05	0.61
	産業廃棄物	1.00	1.06	0.68
上水使用量	上水	1.00	0.90	0.92
化学物質使用量	アセトン	1.00	0.89	1.04
	スチレンモノマー	1.00	1.03	0.53
	メタクリル酸	1.00	0.46	1.00

注：0.99 以下が目標達成、1.00 以上が目標未達成。



< 71期（2023年度）実績値 >

				2022年10月～2023年9月					
				量		料金（円）	CO2排出量 （kg-CO2）	割合	
エネルギー 使用量	電力1	本社	関西電力	401,152.00	kWh	11,532,029	145,217.02	44.2%	
	電力2	東京	東京電力	23,929.00	kWh	1,083,007	10,696.26	3.3%	
	電力3	富士	東京電力	72,329.00	kWh	2,549,592	32,331.06	9.8%	
	電力4	名古屋 営業所	中部電力	12,160.00	kWh	476,679	4,401.92	1.3%	
	電力5	福岡 営業所	九州電力	11,319.00	kWh	448,217	5,059.59	1.5%	
	ガソリン				3,433,512	L	1,083,007	67,133.47	20.4%
	軽油				4,612.53	L	1,556,257	11,923.22	3.6%
	灯油				3,527.00	L	357,978	8,780.41	2.7%
	A重油								
	都市ガス				19,336.00	Nm3	2,943,246	43,197.14	13.1%
	液化石油ガス（LPG）								
	液化天然ガス（LNG）								
	電力のみの合計（参考値）				520,889.00		16,089,524	197,705.86	60.1%
	（エネルギー）				3,981,877		22,030,012	328,740.10	100.0%
	一般廃棄物総排出量				28,121.64	kg	309,627		
産業廃棄物総排出量				155,527.77	kg	4,295,960			
中間処理量					kg				
うち再資源化量				21,233.16	kg				
最終処分（埋立）量					kg				
廃プラスチック				146,707.77	kg	3,728,228			
廃油				5,400.00	kg	495,660			
木くず				3,420.00	kg	72,072			
水使用量	上水			2,325.00	m3	135,798			
	工業用水				m3				
	地下水				m3				
化学物質 使用量	スチレンモノマー			408,050.08	kg				
	メタクリル酸			1,242.13	kg				
	アセトン			8,031.50	kg				
資源	紙			874.65	kg				

< エネルギー関連使用量 > 71期（2022年10月～2023年9月）

電気使用量		kWh				
	東京	富士	名古屋	福岡	本社	合計
10月	2,047	6,845	1,028	1,043	36,430	47,393
11月	1,561	5,544	721	813	28,512	37,151
12月	1,791	5,381	848	748	26,899	35,667
1月	2,261	6,426	1,229	1,150	33,860	44,926
2月	2,465	7,119	1,254	749	38,977	50,564
3月	2,810	6,282	1,037	869	44,573	55,571
4月	2,250	5,409	848	839	37,580	46,926
5月	1,458	4,619	647	608	25,855	33,187
6月	1,269	4,092	723	898	25,441	32,423
7月	1,625	5,855	1,024	1,113	30,399	40,016
8月	2,100	7,152	1,456	1,412	37,734	49,854
9月	2,292	7,605	1,345	1,307	34,892	47,441
	23,929	72,329	12,160	11,549	401,152	521,119

ガス		m3				
	東京	富士	名古屋	福岡	本社	合計
10月	・東京倉庫はプロパンガスのため除外。 ・東京支店は共益費に含まれる。	プロパンガス	1	共益費を含む	460	461
11月			1		778	779
12月			2		1,228	1,230
1月			1		2,949	2,950
2月			2		2,771	2,773
3月			3		2,552	2,555
4月			2		2,192	2,194
5月			1		1,979	1,980
6月			1		1,409	1,410
7月			1		1,327	1,328
8月	1	1,674	1,675			
9月	1	1,141	1,142			
			17		20,460	20,477
		風呂、暖房、炊事			風呂、暖房、乾燥炉	

	ガソリン		リットル			合計
	東京	富士	名古屋	福岡	本社	
10月	643	14	750	608	1,079	3,094
11月	220	53	622	729	763	2,387
12月	166	5	598	928	944	2,641
1月	118	38	403	809	965	2,333
2月	224	52	758	733	753	2,520
3月	375	6	375	934	677	2,366
4月	319	81	684	788	868	2,738
5月	243	36	685	774	1,042	2,780
6月	196	7	592	578	875	2,249
7月	258	18	550	786	1,163	2,774
8月	329	45	597	795	931	2,697
9月	461	43	450	713	931	2,598
	3,551	398	7,064	9,173	10,991	31,176

	軽油		リットル
	富士	本社	合計
10月	258.30	180.00	438.30
11月	296.17	0.00	296.17
12月	396.86	0.00	396.86
1月	398.75	180.00	578.75
2月	188.88	0.00	188.88
3月	470.69	0.00	470.69
4月	372.24	180.00	552.24
5月	217.44	0.00	217.44
6月	378.77	0.00	378.77
7月	239.67	180.00	419.67
8月	333.62	0.00	333.62
9月	521.14	180.00	701.14
	4073	900	4,973

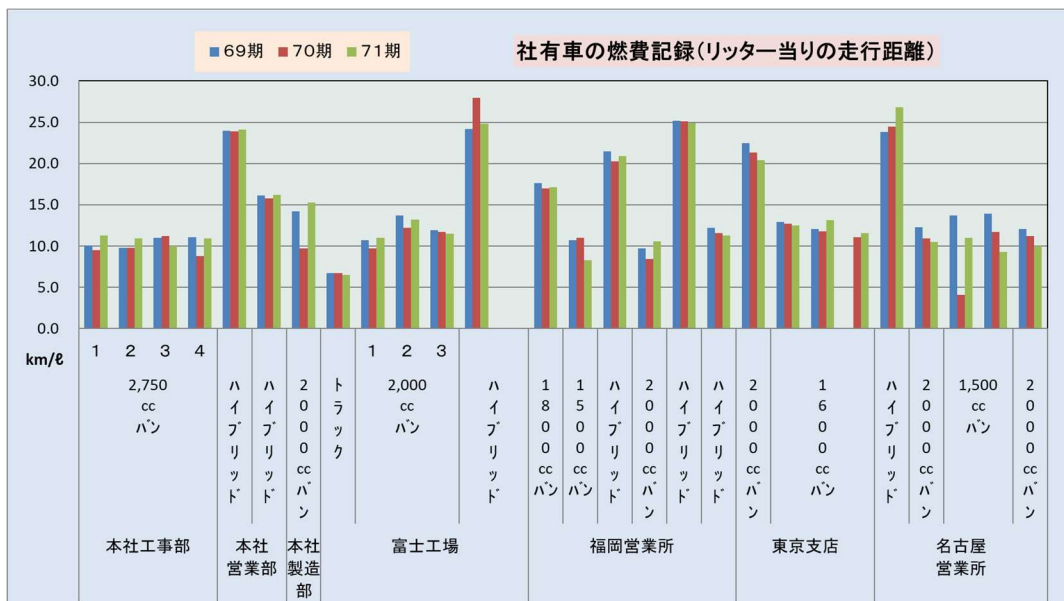
	灯油		
	富士	本社	合計
0月	0.00	0.00	0.00
11月	0.00	0.00	0.00
12月	0.00	360.00	360.00
1月	330.00	540.00	870.00
2月	563.00	540.00	1103.00
3月	324.00	180.00	504.00
4月	265.00	0.00	265.00
5月	0.00	0.00	0.00
6月	0.00	0.00	0.00
7月	0.00	0.00	0.00
8月	0.00	0.00	0.00
9月	0.00	0.00	0.00
	1482	1,620	3102

< 社有車 燃費記録 >

	本社工事部				本社営業部		本社製造部	富士工場				
	2,750 cc ハン				ハイブリット	ハイブリット	2000 cc ハン	トラック	2,000 cc ハン			ハイブリット
	1	2	3	4					1	2	3	
69期	10.1	9.8	11.0	11.1	24.0	16.1	14.2	6.7	10.7	13.7	11.9	24.2
70期	9.5	9.8	11.2	8.8	23.9	15.8	9.7	6.7	9.7	12.2	11.7	28.0
71期	11.3	10.9	10.0	10.9	24.1	16.2	15.3	6.5	11.0	13.2	11.5	24.8

単位 [km/l]

	福岡営業所						東京支店				名古屋営業所				
	1800 cc ハン	1500 cc ハン	ハイブリット	2000 cc ハン	ハイブリット	ハイブリット	2000 cc ハン	1600 cc ハン			ハイブリット	2000 cc ハン	1,500 cc ハン		2000 cc ハン
69期	17.6	10.7	21.5	9.7	25.2	12.2	22.5	12.9	12.1	-	23.8	12.3	13.7	13.9	12.1
70期	17.0	11.0	20.3	8.4	25.1	11.6	21.3	12.7	11.8	11.1	24.5	10.9	4.1	11.7	11.2
71期	17.1	8.3	20.9	10.6	24.9	11.3	20.4	12.5	13.1	11.6	26.8	10.5	11.0	9.3	10.0



< 環境関連法規の遵守 >

当社（本社・工場、東京倉庫、富士工場）に関わる下記の環境関連法規の遵守状況を確認した結果、訴訟および違反行為は過去5年間ありませんでした。また、関係当局からの指摘は過去5年間ありませんでした。

遵守評価日：2023年10月26日

	法規制等の名称	適用される要求事項 (対応すべき事項)	該当する 設備・項目	担当 部署	遵守評価		
					確認 文書	判定	
全社 対応分	フロン類の使用の合理化及び 管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	(法第16条(管理者の判断基準)) ①適切な場所への設置・維持 ②機器の点検(第一種特定製品のみ) 全て対象:簡易点検(油にじみ、腐食、損傷、異音、異常振動等) 一定規模*以上対象:専門家による定期点検 (エアコン1回/3年等) ③漏洩防止・未修理での充填禁止 ④点検等の履歴の保存、整備時に記録の提示 ⑤漏えい量の把握と1000 CO2-t/年以上漏えい時の報告	技術部 タジョイント用 冷凍庫 富士工場 エアコン	製造部・富士工場	引取証明書	○	
	大気汚染防止法	第2条(特定施設の届出) ・ばい煙:排出基準0.1g/m ³ N ・一般粉じん:敷地境界線上濃度 1.5mg/m ³ ・揮発性有機化合物排出: 敷地境界線上濃度 トルエン 2.0ppm、MEK 4.0ppm	乾燥炉 1台 空気圧縮機 6台 送風機 (脱臭装置) 6台 集塵機 2台 工業用ミキサー 4台 ロール機 1台 プラスト 1台 ワインディング機 3台 塗装ブース 1台	安全委員会事務局・富士工場	測定報告書	○	
	騒音規制法	特定施設の届出、地域別騒音・振動基準 7.5kW以上空気圧縮機・送風機、 30kw以上のロール機、プラスト 第3種区域 敷地境界線において65デシベル	富士工場 旋盤2台 ボール盤3台 高速切断機3台 空気圧縮機3台 丸のこ盤1台 かんな盤1台 帯のこ盤1台		届出書	○	
	振動規制法				記録	○	
	悪臭防止法	特定悪臭物質排出の敷地境界線地表での濃度基準 トルエン:10ppm、スチレン:0.4ppm、 キシレン:1ppm、MIBK:1ppm、 酢酸エチル:3ppm					○
	自動車から排出される 窒素酸化物及び粒子状物質の 特定地域における総量の 削減等に関する特別措置法 (自動車NOx・PM法)	対策地区内で排気ガス規制に適合した自動車の使用	自動車			車検証適合車マーク	○

全社対応分	廃棄物処理法	委託基準：一廃収集業者の許可の確認	一般廃棄物 (紙くず、段ボール、 木くず、生ごみ など)	資材部 購買課・ 出先事業所	許可証	○
		委託基準：産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約	産業廃棄物 (金属類・廃プラ類・ 廃ガラス・廃油・ 木製パレット)		許可証・ 契約書	○
		保管基準：60cm×60cm以上表示、飛散・浸透防止、衛生管理			現場観察	○
		マニフェスト交付 A,B2,D,E票の保管(5年間)、B2・D票90日、 E票180日以内に送付されない場合は 30日以内の知事への報告			マニ フェ ス ト エ ス	○
	化学物質排出 把握管理促進法 (PRTR法)	第1種指定化学物質取扱者は移動量を報告 (年間取扱量1トン以上で従業員21名以上の場合、 排出量及び移動量を把握し、 毎年度、排出量及び移動量を主務大臣に届出)	トルエン スチレン タクリル酸	資材部 購買課 営業部	報告書	○
		性状及び取扱いに関する情報(SDS)の提供： 指定化学物質等を他の事業者に対し譲渡し、 又は提供するときは、性状及び取扱いに関する情報を 文書又は磁気ディスクの交付等により提供			提供 状況 S D S	○
	毒物及び劇物取締法	盗難／漏洩防止、容器への表示、保管施設への表示	試薬類	技術部	現場 観察	○
	労働安全衛生法	常時50人以上の事業所 安全管理者、衛生管理者、産業医、安全委員会、 衛生委員会の設置と届け出	安全管理者 衛生管理者 産業医 安全委員会	安全 委員 会 事 務 局	届出書	○
		作業環境測定の実施 (粉じん、有機溶剤濃度)	作業環境測定		記録	○
		有機溶剤健康診断の実施 (雇入れ時、6ヶ月毎)	有機溶剤健康診断		○	
		粉じん作業健康診断の実施 (雇入れ時、管理区分1：3年毎、管理区分2,1：3年毎)	粉じん作業健康診 断		○	
	消防法	危険物保管の指定数量以上の許可申請 危険物保管の指定数量以上の危険物取扱者の届出	各種樹脂 有機溶剤 硬化剤 灯油、軽油	現場 観察	○	
火災報知機の設置(工場500㎡以上) 屋内消火栓の設置(工場700㎡以上) 消防用設備等の点検と報告		○				

全社対応分	環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律 (環境保全活動・環境教育推進法)	第十条 事業者は、その雇用する者に対し、環境の保全に関する知識及び技能を向上させるために必要な環境保全の意欲の増進又は環境教育を行うよう努めるものとする。	エコアクション21、 6.教育訓練の実施	管理部	記録	○
兵庫県	環境の保全と創造に関する条例	事業活動を行うに当たっては、これに伴って生ずるばい煙、汚水(廃液を含む。以下同じ。)、廃棄物等の処理その他の公害を防止し、又は自然環境を適正に保全するために必要な措置を講ずるとともに、工場等(工場、事業所等事業を行う場所をいう。以下同じ。)の緑化、ごみの散乱の防止等に必要な措置	乾燥炉 換気装置 廃棄物	本社工場	記録	○
	環境の保全と創造に関する条例施行規則					
静岡県	静岡県生活環境の保全等に関する条例	粉塵、騒音、大気汚染、水質など公害の防止	換気装置	富士工場		
	静岡県生活環境の保全等に関する条例施行規則					
神奈川県	神奈川県生活環境の保全等に関する条例	粉塵、騒音、大気汚染、水質など公害の防止	廃棄物コンテナ	東京支店	記録	○
	神奈川県生活環境の保全等に関する条例施行規則					

< 代表者による全体の評価と見直し・指示 >

	見直しに必要な情報（環境管理責任者の報告）	
環境経営方針	3. 環境経営方針に示された「環境への取組の基本的方向」は現在も適切か。環境経営方針が実行され、EA21 全体の取組は効果的か。	取組の基本的方向は適切であった。 取組は効果的であった。
環境経営目標 環境経営計画	6. 環境経営目標、環境経営計画の達成状況は妥当か。 ① 二酸化炭素排出量削減（省エネルギー） ② 廃棄物排出量削減（リサイクル）、 ③ 総水使用量削減（節水）ほかの実績 ④ 新規テーマはないか	① 目標は全体的には達成されたが、ガソリンおよび都市ガス使用量は未達であった。 ② 目標は達成された。 ③ 目標は達成された。 ④ 環境配慮製品開発を強化する。
その他の環境経営システム	4. 環境負荷に大きな変化はないか。環境への取組状況に変化はないか。 5. 法規、条例の内容に変更はないか。法規制は遵守しているか。 7. 実施体制は効果的か。 実施体制の変更の必要性 8. 教育・訓練は実施されているか。 9. 外部からの苦情や要望は何か。 10. 実施及び運用は適切か。 11. 緊急事態への準備と訓練は適切か。 12. 文書・記録の作成と整理は適切か。 13. 取組状況の確認は適切か。 問題の是正処置は有効か。 ※1. 環境経営レポートの内容は適切か。 ※2. 事務所に備付け、ホームページでの公開は最新版か。 その他： 審査員より「建設業者向けガイドライン」への移行要請があった。	4. 大きな変化はなかった。 5. 特になし。遵守している。 7. 効果的であり変更の必要ない。 8. 確実に実施されている。 9. ありませんでした。 10. 適切でした。 11. 消防避難訓練に加え樹脂・油脂の流出、事故・災害の机上訓練を実施した。 12. 適切でした。 13. 適切でした。 ※1. 適切です。 ※2. 最新版を公開している。 その他：「建設業者向けガイドライン」への移行について検討が必要。
内部監査	・ EA21 はガイドラインに適合しているか。 ・ 環境経営目標が達成されているか。 ・ 適切かつ有効に運用され、継続的に改善されているか。	・ 適合している。 ・ 電力以外の燃料削減が必要。 ・ 適切かつ有効に運用されていた。更なる改善を進める。

2023年12月28日 代表取締役社長 松本 一郎

全体の評価		変更の 必要性	指示
環境 経営方針	環境に寄与する企業という意識を一層強化	有 無	SDG s の従業員その他関係者への啓発を強化すること
環境経営 目標 環境経営 計画	SDG s (12. 作る責任、つかう責任) を重点目標にしたリスク管理を組み入れた事業活動の実施	有 無	部門別目標の意識づけをさらに強化すること
その他の 環境経営 システム	「建設業者向けガイドライン」への移行検討について	有 無	EA21「建設業者向けガイドライン」への移行だけでなくISO14001も含め環境経営について根本的見直しを検討すること。
実施体制	現時点では適正と考える。	有 無	現状を維持すること

- *1. 見直しに必要な情報欄の番号は、環境経営システムガイドラインの必須項目(12項目)の番号を示しています。※印は環境経営レポートガイドラインの要求事項を示しています。
- *2. 評価は毎年1回(原則として11月)に実施します。
- *3. 環境管理責任者は社長の指示内容について直ちに実行に移し、その結果を社長に報告します。